

# 動 検 時 報

Vol.59-1 2026.01



(撮影：企画管理部調査課)

## ○ What's New !

明けましておめでとうございます！本年もよろしくお願いします！2026年の干支は、動物検疫ではお馴染みの「午<sup>うま</sup>」です。日本では馬の鳴き声といえば「ヒヒーン」ですが、英語圏だと「ウィニー」というそうです。

本年も海外での越境性動物疾病の発生を踏まえ、水際対策を強化していくとともに、海外からの畜産物の違法な持込みに対する厳格な対応など、家畜伝染病の侵入防止に努めてまいります。

動物検疫所の今後に、午（ご）期待ください！

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ 動検時報 第 59-1 号 目次 ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

◎ 年頭の御挨拶 .....	3
◎ トピックス	
・ 2025 動物感謝デー in JAPAN への参加（羽田空港支所） .....	4
・ 沖縄支所における台湾アフリカ豚熱対策（沖縄支所） .....	5
◎ 動物検疫関連情報	
・ 令和 7 年度検疫課長・出張所長会議の開催（企画管理部企画調整課） .....	5
・ 京浜 3 港の合同講習会の紹介 （検疫部畜産物検疫課 川崎出張所 羽田空港支所東京出張所） .....	6
・ アジア各国からの研修生が門司支所へ来ました！ 2025 （門司支所福岡空港出張所・博多出張所） .....	7
・ 茨城県内在留外国人に向けた広報活動（成田支所） .....	8
・ 帯広空港 国際定期便が週 6 便に増便（北海道・東北支所） .....	9
・ 関西空港支所でオランウータンの輸入検疫を実施しました（関西空港支所検疫第 2 課） .....	10
◎ 所内情報	
・ 令和 3 年度採用者フォローアップ研修（企画管理部調査課） .....	11
・ 令和 7 年度家畜防疫官（技術 I）研修（精密検査部病理・理化学検査課） .....	11
・ 堀割川の日について（総務部庶務課） .....	12
・ 令和 8 年 1 月 1 日現在動物検疫所の所在地（企画管理部企画調整課） .....	13
◎ 畜産物・動物の輸出入検疫数量実績（令和 7 年 11 月）（企画管理部調査課） .....	15
◎ 動検通信（沖縄支所） .....	16

## ◎年頭の御挨拶

(動物検疫所長)



謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年中の関係者の皆様の動物検疫に対する御理解と御協力に心から感謝申し上げますとともに、皆様と新しい年を迎えられたことにお慶びを申し上げます。

さて、2025 年を振り返ってみますと、家畜衛生を取り巻く環境は相変わらず大変厳しいものでした。ドイツやハンガリー、韓国において口蹄疫が相次いで発生し、アジアではアフリカ豚熱の発生が継続的に報告されました。10 月には台湾においてもアフリカ豚熱が発生し、東アジアで清浄性を保っているのは日本だけとなりました。引き続き、この状況を維持継続すべく関係者と連携し、水際検疫の強化に努めてまいります。

一方で、訪日外国人旅行者数は過去最高を記録し、9 月には過去最速で累計 3,000 万人を突破しました。押し上げの要因として大阪・関西万博の開催や継続的な訪日旅行の人気の高まりがあげられています。

このような予断を許さない状況の中、6 月には、アフリカ豚熱ウイルスや植物の病害虫等の侵入防止を念頭に動植物検疫における水際検疫体制の課題や必要な取組を明らかにすること等を目的に、専門家からなる「水際検疫の強化に向けた検討会」が開催され、「水際検疫の強化について（中間とりまとめ）」が公表されました。とり

まとは、「日本に持ち込ませないための水際検疫体制の強化」と「輸入禁止品に係る国内対応の取締強化」の 2 本柱から構成されています。前者については、(1) CIQ 関係行政機関や航空会社等との連携強化、(2) 先端技術等の活用による効果的な検査体制の構築、(3) 動植物検疫制度の周知徹底の検討が必要との提言がありました。また、後者については、家畜防疫官への新たな権限の付与等に関する家畜伝染病予防法改正の検討があげられ、今後、法制度の見直しに向けて進めて行くこととなります。

このような家畜衛生環境にあります。関係者の為すべきこと果たす役割は、どのような情勢にあってもその幹となる部分は不変であると考えております。検討会の提言を真摯に受け止め、動物検疫所としましては、国民の期待を正面から受け止め、時代の変化を見通して、関係者と緊密に連携を図りながら疾病の侵入防止に全力を挙げることとしております。

今年は午（うま）年です。動物検疫所の歴史を紐解くと馬とのつながりが深く、時は 100 年余り遡りますが、明治時代には馬が検疫対象家畜に加わるとともに改良の目的で海外からの輸入が急増しました。そのため、日本初となる常設の洋式競馬場であるかつての根岸競馬場（現在は根岸競馬記念公苑）の施設もお借りして検疫をしていました。その後、施設が手狭になったため、滝頭波止場（現在の横浜本所）に検疫施設を新たに建てて現在に至っています。

「午」は古来より前進、飛躍、活力の象徴とされています。干支にあやかり、駿馬が大地を駆け抜けるが如く目標へと邁進し、更なる高みを目指して突き抜けたと思います。

本年も CIQ 関係行政機関、都道府県をはじめとする地方自治体、輸出入関係者、獣医師、生産者等の方々と手を携えて、厳しい家畜衛生環境ではありますが、業務の合理化や効率化を図り、自律的に備える攻めの姿勢を忘れずにリスク管理機関としての責務を全所挙げて果たしたいと考えております。関係者の皆様に御理解と御協力をお願い申し上げ、本年が素晴らしい年となりますよう祈念し、年頭の挨拶とさせていただきます。

動物検疫所長 石川 清康



## ◎トピックス

### ・2025動物感謝デーin JAPANへの参加

(羽田空港支所)

令和7年11月15日(土)、東京都台東区の上野恩賜公園で開催された「2025 動物感謝デー」に参加しました。本イベントは日本獣医師会が主催し、獣医師の仕事や動物の果たす社会的役割について、ステージやブース展示を通じて楽しく学び、理解を深めてもらうことを目的としています。できるだけ多くの方に御来場いただけるよう、イベント開催前に動物検疫所のInstagramでの宣伝を行いました。開会式には鈴木憲和農林水産大臣が出席され、式後に当支所ブースへ激励に訪れた大臣と記念撮影を行いました。

当日は爽やかな秋晴れとなり、会場はペット同伴の来場者を含め多くの方で賑わいました。当所はステージでの動植物検疫探知犬によるデモンストレーションやブース展示を行いました。

ステージでは、当所のハンドラーとリコ号(動植物検疫探知犬。以下「検疫探知犬」という。)が探知活動を披露しました。リコ号にとって、今回が大きなステージ上で行う初めてのデモンストレーションでしたが、普段どおりの落ち着いた様子で肉製品の入った紙袋を見事に当てると、客席からは大きな拍手が湧き起こりました。客席の子どもたちにも紙袋を持った旅客役として参加してもらったことで、探知活動のデモンストレーションは大いに盛り上がりました。

ブースでは、日本への持込みが禁止されている食べ物を当てる輪投げゲームを行い、全てに正解した来場者には「クンくん」のラバーマスコットストラップを景品としてプレゼントしました。ラバーマスコットストラップの制作は当所として初めての試みであり、来場者に喜んでもらえるか不安もありましたが、当日は老若男女を問わず多くの来場者に大変な人気ぶりでした。実際にバッグなどに付けてくれる方の姿も多く見られ、グッズを通して動物検疫を身近に感じてもらえることを実感しました。

また、羽田空港で働いている検疫探知犬である苺号、リコ号、シルク号の様々な表情を切り取っ

た写真をトレーディングカードにした景品も大人気でした。大学生達はお気に入りのトレーディングカードを選び、透明のスマートフォンケースにカードを挟んで「可愛い」と声をあげ、癒されているようでした。動物検疫制度を口頭で説明することに加えて、このようなグッズ(広報物)を通じて動物検疫の周知につなげていくことも重要であると感じました。

午後には、ブース前でリコ号とシルク号との写真撮影会を2部に分けて行いました。写真撮影会が開始されると、どちらの回にもブース前には多くの来場者が列を成し、検疫探知犬の人気の高さを実感しました。

さらに、海外にペットを連れて行くことを検討している飼い主から、犬や猫の輸出入検疫制度について質問されることも多く、動物検疫の役割について多くの来場者に周知する大変有意義な機会となりました。



鈴木大臣との記念撮影



クンくんラバーマスコットストラップ

## ・沖縄支所における台湾アフリカ豚熱対策

(沖縄支所)

本年10月21日に台湾で初めてアフリカ豚熱が発生し、東アジアで同病の発生のない国は日本のみになりました。

このため、沖縄支所では、水際対策の再点検を行い国際クルーズ船における靴底消毒場所のより効果的に行える場所への変更や掲示しているポスターの変更を行うとともに、CIQ (Customs: 税関、Immigration: 出入国在留管理局、Quarantine: 厚生労働省検疫所、農林水産省動物検疫所及び植物防疫所の略) に対しては、アフリカ豚熱発生の情報提供、広報及び検査対応に係る協力依頼、船舶代理店及び航空会社に対しては、アフリカ豚熱発生の情報提供、ギャベージ (外国航路の船舶若しくは航空機内で生じた食品等の残渣であって、指定検疫物が混在しているもの及び混在しているおそれのあるもの) の適正処理、船内アナウンスやポスター等の掲示及び靴底消毒マットの設置に係る協力依頼を行いました。

また、沖縄は台湾からの航空機やクルーズ船の入港も多いことから、那覇空港及び石垣港で沖縄県や関係機関と共同で広報キャンペーンを実施しました。広報キャンペーンには、動物検疫所公式キャラクター「クンくん」を登場させたため、旅客の目を引き、新聞やテレビで報道され、効果的なものとなりました。



石垣港における広報キャンペーンの様子

さらに、沖縄県が10月28日に那覇市で県関係機関、市町村 (畜産及び鳥獣担当)、JA おきなわ (沖縄県農業協同組合)、養豚団体、飼料会社、畜

産振興公社及び猟友会を参集して開催した「アフリカ豚熱緊急防疫対策会議」や、11月19日に石垣市で市町村、養豚農家、猟友会及び関係団体を参集して開催した「台湾のアフリカ豚熱発生にかかる防疫対策会議」において、水際検疫について説明し、理解を深めていただきました。

今後も関係機関と協力し、家畜伝染病の侵入防止に努めてまいります。

## ◎動物検疫関連情報

### ・令和7年度検疫課長・出張所長会議の開催

(企画管理部企画調整課)

令和7年11月20日の午後から21日にかけて、令和7年度検疫課長・出張所長会議を横浜本所にて開催しました。業務の都合による一部webでのリモート参加を併用しつつ、全国の検疫課長・出張所長が一堂に会する大々的な会議となりました。会議には、消費・安全局動物衛生課国際衛生対策室から鈴木課長補佐 (検疫業務班) にも出席いただきました。

冒頭、石川動物検疫所長から、近隣国での越境性動物疾病の拡大が続いており、関係者からの水際検疫への期待がますます高まっている、動物検疫所は全所を挙げて緊張感を持ちつつ組織の能力を最大限発揮することで、水際での警戒体制に万全を期し、リスク管理機関としての責務を果たしていくとの考えが述べられました。さらに、本会議はそれぞれ現場で抱える問題や課題について情報提供・共有するとともに、動物検疫所全体として認識の統一と業務の高位平準化を図ることが目的であること、また、議論の結果は持ち帰って報告するだけでなく、現場の職員と情報共有して業務に生かしてほしいとのお話がありました。

続いて、動物衛生課の鈴木課長補佐からは、昨今の海外における家畜伝染病の発生状況を見ると緊張感が増すところ、動物検疫所には負担をかけているが、迅速に対応してもらっている。本日は、現場により近い各所の意見を聞ける良い機会、と挨拶がありました。

会議は、まず昨年度の会議のフォローアップと



して、昨年度の議題に関する対応の進捗状況等を事務局から報告することで、双方向での議論となるようにしました。その後、各所が抱える懸案事項の中から事前に提供いただいた議題について議論が進められました。

1日目は、輸出入動物関連の議題が中心となりました。初生ひなの輸入検査に関して、到着時検査をより速やか、かつ効率的に行うためには関係事業者の方々の協力が必須であること、到着港と検査担当動検とがしっかり連携をして検査を実施することが重要であること、係留施設の老朽化等に伴う係留施設の再編整備や今後の在り方について検討していく必要があること等について議論しました。

2日目午前は、動植物検疫探知犬の効果を最大限に引き出すための運用や旅客の携帯品検査中に生じるカスタマーハラスメント対応等について議論しました。また、国内におけるランピースキン病の発生を受け、門司支所管内のフェリーターミナル等における吸血昆虫（サシバエ）対策等が情報提供として紹介されました。

午後は本所各部からの連絡事項を伝達し、2日間にわたる会議が終了しました。なお、議論の時間を取ることができなかった要望事項については、書面での回答としました。

近隣国ではアフリカ豚熱や口蹄疫といった越境性動物疾病が継続発生し、人流・物流の活発化が見られる中、我が国へのそれらの疾病の侵入防止に万全を期すための輸入検査体制の維持・水際検疫の強化が重要になります。今回の会議を通じて、我が国畜産業の一層の振興と公衆衛生の向上に向けて、職員全員が志高く、引き続き強い気持ちで水際検疫に当たっていくことを再認識して閉会しました。



検疫課長・出張所長会議の様子

## ・京浜3港の合同講習会の紹介

(検疫部畜産物検疫課

川崎出張所

羽田空港支所東京出張所)

神奈川県から東京都にまたがる京浜港には横浜港、川崎港及び東京港があり、利用者である輸出入者や通関代理店は貨物が到着する港に設置された動物検疫所にそれぞれ検査申請するため、各所間で手続の内容及びそれらを伝達する講習会を共通化することが課題でした。

そこで令和6年度から、京浜各港を管轄する検疫部畜産物検疫課、川崎出張所及び羽田空港支所東京出張所の3所がタッグを組んで手続の共通化について検討を重ね、令和7年3月、輸出申請者を対象とした京浜3港初の合同講習会「輸出畜産物検査要領の改正概要説明会」を開催するとともに年間計画に基づき各種合同講習会を実施することとしました。

合同講習会は原則 web 開催（Teams 会議を利用）とし、令和7年度は畜産物の輸出入の実務講習会、指定検査場所向けの遵守状況調査の説明会、動物検疫協会と共催の申請者／指定検査場所初任者向け講習会などを、3所が持ち回りで開催しました。

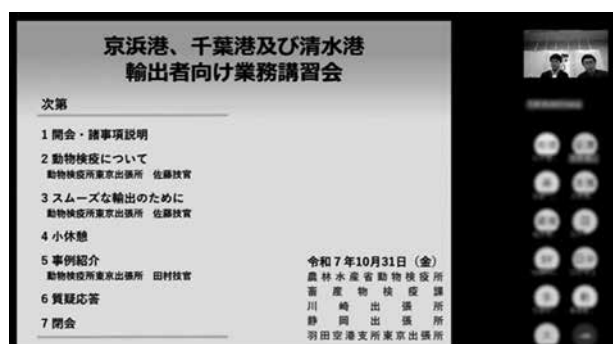
動物検疫所 web サイトに「講習会等のお知らせ」ページを新設して開催案内や資料を載せて利便性を図り、講習後は Forms を使った理解度確認テストを実施し、その場で間違いが多かった設問の解説も行っています。



分かりやすいと好評だった遵守状況調査の説明アニメーション（畜産物検疫課作）

講習資料やテストの内容は事前に3所で打ち合わせ、特に資料は講習会後にも参照いただけるものとなるように、正確さとわかりやすさを心掛けています。令和7年は計7回の合同講習会を開催しました。おおむね好評で「web開催で格段に参加しやすくなった」（7月の初任者講習会では受講者が320名を超えました！）、「資料を社内研修に活用でき助かる」、「動検業務の理解が深まった」、「今後も是非参加したい」等のうれしい感想をいただきました。さらに、10月の輸出畜産物の申請者向け講習会では清水港も加わり、当所にとっても、資料作成や事務作業を分担することで1所当たりの負担が減り、効率化につながっています。

開催時期や質疑応答方法などで改善意見もいただいております、引き続きブラッシュアップを重ねて、より良い講習会にしていきます。皆さま奮って御参加ください！



10月31日の輸出申請者向け業務講習会  
(東京出張所主催)

## ・アジア各国からの研修生が門司支所へ 来ました！2025

(門司支所福岡空港出張所・博多出張所)

令和7年10月28日、日本獣医師会のアジアの若手獣医師を対象とした研修事業の一環として、14名の研修生が動物検疫所の水際検疫を知るため、福岡空港へ来られました。

会議室において、福岡空港出張所職員による空港における水際検疫について説明後、入国者に対する靴底消毒、家畜防疫官による口頭質問・携帯品検査、動植物検疫探知犬（以下「検疫探知犬」という。）の探知活動とデモンストレーションを

見学していただきました。

靴底消毒マットの紹介では、使用されている薬剤や散布・確認回数について質問が上がるのと同時に、フィリピン出身の研修生からは自国でも同じように靴底消毒を行っているとのお話がありました。また、携帯品検査カウンターで研修生の出身国から持ち込まれた禁止品を紹介したところ、母国で人気の商品であることや、売っている場所など、業務中に所持者になかなか聞けない情報を教えてくださいました。特に検疫探知犬の活動に大変興味を持たれたようで、1日の流れ、活動年数、引退するきっかけや引退後の生活等、様々な質問をしてくださいました。

見学は1時間半程度でしたが、細かなものを含めると30件以上の質問を頂き、研修生の方々の関心の高さを感じるとともに、日本の水際検疫への理解を深めていただくことができました。見学の最後には、検疫探知犬くら号とにこやかに記念撮影をして1日目の見学は終了となりました。

翌29日、2日目は博多港の見学をしました。まずは博多出張所の入居する福岡港湾合同庁舎において、福岡空港出張所及び博多出張所の職員から動物検疫の概要を説明しました。ここでも畜産物や家畜、ペットの犬、動物園動物、国際郵便物、検疫探知犬、水産動物などなど、動物検疫に関する本当に多くの、また幅広い質問を頂きました。中にはこちらがうなるような質問もあり、終始活発であった質疑応答の時間を通じ、研修生の皆さんの熱意に感心した次第です。

その後、隣接する博多港国際ターミナルに案内し、国際貨客船における水際検疫について、旅客の動線に沿って説明しました。ターミナルには博多港と韓国釜山港を毎日往復する日韓定期フェリー「ニューかめりあ」が着岸をしていましたが、当日の携帯品検査業務は終了していたため、検査風景のパネルを使用してイメージを掴んでいただきました。

集合写真を撮影後、一行をターミナルの展望デッキに連れて行くと、見え隠れしていた緊張感から解放された表情がデッキに広がっていきしました。解散までの短い時間をフェリーや博多港をバックに写真を撮ったり、思い思いに過ごす姿は微笑ましく、ちょっとだけ博多港を感じていただ



けたのかなと思います。引率の方からは、また来年も、という声もいただきました。母国で獣医師として活躍される皆さんに日本の水際検疫を知っていただくよい機会となるよう、今年度頂いた多くの質問も参考に、期待に添える内容を準備してお迎えしたいと思います。



福岡国際空港での集合写真



## ・茨城県内在留外国人に向けた広報活動 (成田支所)

動物検疫所では、入国者に対する動植物検疫探知犬、家畜防疫官による質問等による水際対策強化を図る一方で、事前の広報活動も行っています。成田支所では、広報の一環として在留外国人が誤って母国から我が国へ輸入できない畜産物を持ち込むことがないように、地方公共団体、関係団体等の皆様の御理解と御協力の下、当支所と連携した在留外国人に対する広報活動を実施しています。その一部について、御紹介します。

### 【鉾田市】

市内で開催している日本語教室の会場へのポスター掲示のほか、参加された方々に直接リーフレットを配布していただいています。



日本語教室の入口前

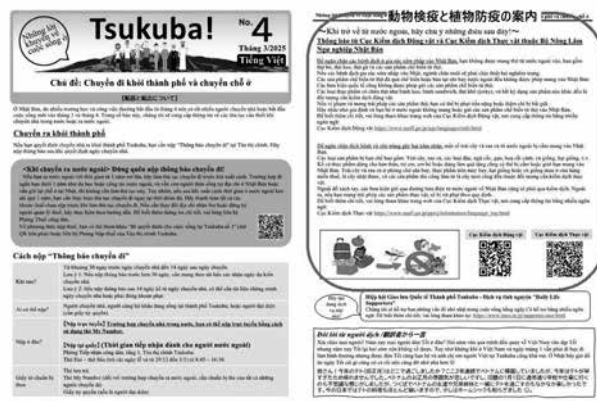
### 【つくば市】

茨城県で最も在留外国人数が多いつくば市は、在留外国人向けに多言語（8か国語）で外国語生活ガイド（紙・電子媒体有り）を発行されています。こちらに植物防疫所と合同で案内を掲載していただいています。

より多くの方に制度について知っていただくために、今年度は市の公式 SNS 及びホームページへの案内文掲載を予定しています。



8か国語の外国語生活ガイド（紙媒体）



電子媒体の外国語生活ガイド  
(写真はベトナム語)



## 【小美玉市】

市が主催する市民と外国人との交流イベントである「国際交流ひろば」へ参加し、来場された方へ、動物検疫の案内を行いました。



イベントでの展示の様子

## 【稲敷市】

市のホームページ上に、外国人向けの「やさしい日本語」で、動物検疫の案内を掲載しています。



稲敷市ウェブサイト

## 【JA 茨城中央会】

茨城県 JA 農業外国人材連絡会の全体会議において、「海外からの畜産物等持込みに対する留意事項」について説明を行い、県内にある JA 等関連団体（8 か所）から技能実習生へリーフレットを配布していただいています。

## 【茨城県】

茨城県農林水産部農業経営課就農・農業参入支援室で行っている、茨城県外国人農業労働力確保

支援事業における特定技能外国人、外国人技能実習生等の管理団体や JA への説明会において、動物検疫に関する情報提供の場を設けていただけたこととなりました。現在 2 月に行われる予定の説明会に向けて調整を行っております。

最後に、この場では御紹介できませんでした。が、茨城県内においては、上記以外にも国際交流会、大学等において幅広く、ホームページへの掲載やポスター掲示、リーフレットの配布等の御協力をいただいています。この場を借りて御礼を申し上げるとともに、引き続き、動物検疫制度について適切な情報発信ができるよう、関係者と連携して広報活動に取り組んでまいります。

## ・帯広空港 国際定期便が週 6 便に増便

（北海道・東北支所）

北海道・十勝の空の玄関口であるとかち帯広空港では、昨年度まで国際線チャーター便のみが運航していましたが、2025 年 5 月に空港として初めての国際定期便が就航し、週 3 便の韓国・清州線の運航が開始されました。さらに、11 月には新たに韓国・仁川線も就航し、既存路線の増便も合わせて、2 路線で週 6 便の運航となりました。

海外がより身近になる一方で、海外から家畜伝染性疾病が侵入するリスクも高まっています。特に十勝地方は酪農・畜産業が盛んな地域であることから、水際防疫を徹底し、海外から伝染性疾病の侵入を防ぐことが極めて重要です。

このため、当所においては、空港検査場内において肉製品の持込禁止に関する広報物の掲示や、入国者への靴底消毒及び口頭質問の実施、肉製品等の廃棄を促すイエローボックスの設置など、様々な方法を活用し、地方空港においても効率的かつ効果的な動物検疫を実施しています。

また、11 月 28 日には、全国酪農業協同組合連合会（以下「全酪連」という。）札幌支所及び北海道十勝家畜保健衛生所、北海道十勝総合振興局の職員の方々と連携し、帯広空港国際線のチェックインカウンター前で広報キャンペーンを行いました。韓国へ渡航される旅客に対し、当所のリーフレットを同封した広報用ティッシュを配布し、日本入国の際の肉製品の持込禁止や靴底消

毒への協力を呼びかけました。当所職員のみならず、全酪連や北海道庁の皆様にも積極的に声掛けを行っていただき、旅客の動物検疫に対する理解を深めることができました。

北海道では冬の訪れとともに入国者数が増加し、インバウンドのピークを迎えます。引き続き、関係者の皆様と連携し、動物検疫制度の周知に取り組むとともに、アフリカ豚熱や口蹄疫などの家畜伝染性疾病の侵入を防止するため、水際検疫を徹底して実施していきます。



旅客にポケットティッシュを配布し説明



ご協力いただいた皆様と集合写真

## ・関西空港支所でオランウータンの輸入検疫を実施しました

(関西空港支所検疫第2課)

令和7年11月、動物検疫所関西空港検疫場霊長類検疫施設において、インドネシアから輸入されたオランウータン1頭の輸入検疫を実施しました。

成田国際空港に到着後、当施設まで陸路輸送という長旅で、当初は体調への影響や輸送ケージから檻への移動に時間がかかることが懸念されましたが、実際にはそのような心配はなく、到着した日から落ち着いた様子を見せ、元気にフルーツを食べていました。

今回輸入されたのは14歳のメスのオランウータン「ジェニファー」です。食べることが大好きで、検疫期間中は、フルーツや野菜、ペレットを食べて過ごしていました。フルーツの皮を器用に剥いたり、ペレットは水に浸してから食べたり、野菜の芯だけを残したりと、食べ方にも個性が見られました。

また、人への関心が強く、飼育担当者が加湿の為に水に濡らした毛布を室内に干す作業を見て、自分の毛布を水に浸して絞るといった模倣行動が確認されました。飼育担当者が退室すると、床に横たわり休息するなどリラックスした様子も確認できました。飼育担当者によるきめ細やかなケアにより、新しい環境でも終始穏やかに過ごしていたことが印象的でした。

ジェニファーは無事30日間の検疫を終えて元気に動物園に送り出されました。今後も動物園で元気に暮らしてくれることを願っています。



フルーツを欲しがる「ジェニファー」

## ◎所内情報

### ・令和3年度採用者フォローアップ研修 (企画管理部調査課)

コロナ禍を境に、私たちの職場環境は大きく変わりました。令和3年当時、例年5月に行っている初任者研修もWEBでの開催を余儀なくされましたが、当時動物検疫所ではそのノウハウがなく、機材等も今ほど十分に揃っていない状況の中、事務局も受講者も手探りで対応した記録が残っていました。

そんな初任者合同研修から5年経った本年10月29日(水)～30日(木)の2日間、令和3年度に採用された動物検疫所職員25名を対象とした対面でのフォローアップ研修が横浜本所にて開催されました。講義内容は、自身の所属部署の紹介を通じた情報交換、情報セキュリティや動物検疫をめぐる情勢等の知識の強化、説明力向上を目的としたグループディスカッション、そして先輩職員との意見交換を通じ自身のキャリアパスを考えるカリキュラムです。受講後のアンケートでは、「名前しか知らなかった同期たちと実際に顔を合わせて話すことができ、親睦を深められた」、「国家公務員としての仕事への取り組み方や意識について、ディスカッションや講義を通して再確認できた」、「全国で活躍する同期が皆それぞれの場所で試行錯誤しながら努力していることを知り、よい刺激になった」等、今後の業務遂行にあたりモチベーションの向上につながったことが伺えました。

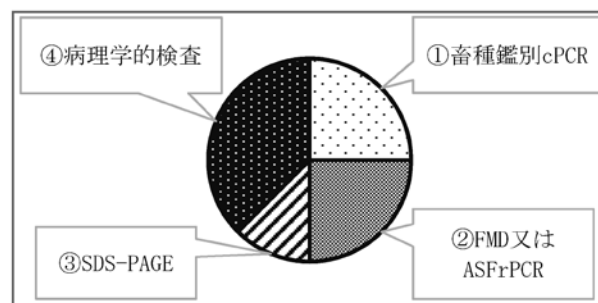
事務局としても、休憩時間やグループディスカッションを通じて互いの経験や業務について積極的に意見を交わし、絆を深めていく姿を目にし、本研修を開催して良かったと感じています。

所長からの講話の中で「研修はあくまでもきっかけ、気付きであり、研修後どのように行動するかが大切」との言葉がありました。本研修で得た知識とつながりを糧に、自身が家畜防疫官になりたいと願った初任時の気持ちを忘れずに行動し、精進して行ってほしいです。

### ・令和7年度家畜防疫官(技術I)研修 (精密検査部病理・理化学検査課)

令和7年11月11日～13日に家畜防疫官(技術I)研修が開催され、各所から3名の職員が受講しました。今年度の技術I研修は、検査室業務に興味がある入省2～5年目の家畜防疫官を対象に、精密検査部の業務及びその具体的な検査スケジュール等について紹介するとともに、検査室業務に必要な基礎的知識及び技能を習得させることを目的に実施しており、受講者が研修で学んだ内容を持ち帰ることにより、各所における検査室業務の一助となることを期待しています。

今年度の研修では新たな試みとして、受講者に事前アンケートを実施し、通常当課で実施している検査のうち、研修で学びたい検査を調査しました。アンケートの結果は、グラフのとおりです。



- ①畜種鑑別 cPCR：畜種の遺伝子をコンベンショナル PCR で検出する。
- ② FMD：口蹄疫、ASF：アフリカ豚熱  
rPCR 法：リアルタイム PCR 法
- ③ SDS-PAGE：タンパク質を可視化することで、食肉の加熱処理状況を確認する。
- ④病理学的検査：病変の生じた細胞を染色して観察し、診断及び原因を究明する。

その結果、研修では畜種鑑別 cPCR、FMDrRT-PCR 及び病理学的検査を実施しました。例年の研修では SDS-PAGE を実施していましたが、今回、希望者が少ない結果となり、動物検疫所内で一般的に用いられている検査 (SDS-PAGE) よりも普段関わることの少ない検査が多く票を集めたものとなりました。このように、研修内容をアンケートで決定する試みは来年度以降の当該



研修のあり方について再考する良い契機となりました。

本研修では、1日目に「検査室の信頼性確保」等の検査室に関する講義、2日目からPCRや病理学的検査等の実技を実施しました。2日目はピペット講習から開始し、ピペット操作の基本的な解説や実技を実施したことで、日常、精密検査に携わらない研修生もその後の研修をスムーズに実施することができたようです。研修生全員がPCR検査の結果を正しく判定でき、病理学的検査では病理切片の薄切作業を自ら実施し、研修の目的である知識と技能を身に付けることができました。

意見交換会及び研修後のアンケートでは「研修を通じて精密検査に興味を持った」、「今後精密検査に携わりたい」といった意見を頂きました。今後も引き続き、当該研修をより良い内容にできるよう工夫を重ねていきたいと思えます。



PCRの試薬調製をする研修生

## ・堀割川の日について

(総務部庶務課)

毎年、横浜本所構内で行われている「堀割川の日」について御紹介します。

「堀割川の日」は地域の方で構成される堀割川魅力づくり実行委員会が主催し、横浜市磯子区が後援しているイベントです。昨年は9月に開催されましたが、熱中症対策のため本年は11月23日(日)になりました。

堀割川は明治7年(1874年)に人口運河として完成し、横浜港と根岸湾をつなぐ舟運路として

利用されました。河口には波止場、川沿いには船宿、造船所、工場が並び、また桜の名所でもあったことから、市民から愛され、にぎわいが見られていたそうです。こうした当時の状況を踏まえ、市民に堀割川の魅力を伝え、親しめる水辺づくりを推進するためのイベントの一つとして「堀割川の日」が毎年開催されています。

動物検疫所は昭和27年に現在の組織名称になりましたが、その前身である「輸入獣類検疫所」は明治41年(1908年)に現在地(磯子区原町)に設置されましたので、堀割川とこの地域の方々とは一世紀以上ともに歩んできたこととなります。

「堀割川の日」の開催にあたり、本所検疫部長から開催のお祝いとともに、動物検疫業務及びその重要性をお話しし、今後も地域の方の御理解を得ながら共に歩んでいくとの挨拶がありました。また庁舎1階では、動物検疫業務のパネル展を開催し、子供から大人まで分かりやすい業務内容の説明を職員から行いました。

明治から令和となり、横浜本所が所在する地域は住宅化が進み周辺環境は大きく変わっています。今後も時代の変化により周辺環境等が変化していくかもしれませんが、動物検疫業務を円滑に進めていくためには、このようなイベント等を通じて、地域や住民の方との交流をしながら御理解を得ていくことが大切だと考えています。

※堀割川の歴史は横浜市HP等から出典

## 動物検疫所の所在地

(令和8年1月1日現在)

動物検疫所			電話番号
<div><div>総務部</div><div>庶務課</div><div>会計課</div><div>企画管理部</div><div>企画調整課</div><div>調査課</div><div>危機管理課</div><div>検疫部</div><div>管理指導課</div><div>動物検疫課</div><div>畜産物検疫課</div><div>精密検査部</div><div>微生物検査課</div><div>海外病検査課</div><div>病理・理化学検査課</div><div>危険度分析課</div></div>			
	〒235-0008	横浜市磯子区原町11-1	(045)751-5923
			(045)751-5924
			(045)751-5955
	〒231-0003	横浜市中区北仲通5-57 横浜第2合同庁舎	(045)751-5937
			(045)751-5973
			(045)201-9478
	〒235-0008	横浜市磯子区原町11-1	(045)751-5943
	〒479-0881	愛知県常滑市セントレア1-2 中部検査・診断センター内	(0569)38-8515
	〒235-0008	横浜市磯子区原町11-1	(045)751-5947
			(045)751-5964
	〒210-0869	川崎市川崎区東扇島6-10 かわさきファズ物流センター内	(044)287-7412
	〒950-0001	新潟市東区松浜町3710 新潟空港ターミナルビル	(025)275-4565
	〒421-0411	牧之原市坂口3336-4 富士山静岡空港旅客ターミナルビル内	(0548)29-2440
	〒424-0922	静岡市清水区日の出町9-1 清水港湾合同庁舎	(054)353-5086
	犬・猫輸入手続窓口 (成田・羽田・関西空港を利用する方)		
北海道・東北支所			
<div><div>庶務課</div><div>検疫課</div><div>小樽港事務所</div><div>胆振分室</div><div>函館空港出張所</div><div>仙台空港出張所</div></div>	〒066-0012	千歳市美々 新千歳空港国際線ターミナルビル	(0123)24-7011
			(0123)24-6080
	〒047-0007	小樽市港町5-2 小樽地方合同庁舎	(0134)33-2460
	〒059-1743	勇払郡厚真町字共和17	(0145)28-3724
	〒042-0952	函館市高松町511番地 函館空港内	(0138)84-5415
	〒989-2401	名取市下増田字南原 仙台空港ターミナルビル	(022)383-2302
成田支所			
<div><div>庶務課</div><div>旅具検疫第1課</div><div>旅具検疫第2課</div><div>旅具検疫第3課</div><div>動物検疫第1課</div><div>動物検疫第2課</div><div>貨物検査課</div></div>	〒282-0004	成田市古込字古込1-1 第2旅客ターミナルビル	(0476)34-2340
	〒282-0011	成田市三里塚御料牧場1-1 第1旅客ターミナルビル	(0476)32-6510
	〒282-0004	成田市古込字古込1-1 第2旅客ターミナルビル	(0476)34-2342
	〒282-0006	成田市取香字上人塚148-1 第3旅客ターミナルビル	(0476)34-4260
	〒282-0001	成田市三里塚大字天浪字西原254-1	(0476)32-6651
			(0476)32-6658
	〒282-0021	成田市駒井野字天並野2159	(0476)32-6655
羽田空港支所			
<div><div>庶務課</div><div>検疫第1課</div><div>(貨物合庁)</div><div>検疫第2課</div><div>東京出張所</div><div>千葉分室</div></div>	〒144-0041	大田区羽田空港2-6-4 羽田空港CIQ棟4階	(03)5757-9751
			(03)5757-9753
	〒144-0041	大田区羽田空港2-6-3 羽田空港貨物合同庁舎	(03)5757-9755
	〒144-0041	大田区羽田空港3-4-2 第2ターミナル国際線施設内	(03)6428-9950
	〒135-0064	江東区青海2-7-11 東京港湾合同庁舎	(03)3529-3021
〒273-0016	船橋市潮見町32-5 船橋港湾合同庁舎	(047)432-7241	
中部空港支所			
<div><div>庶務課</div><div>検疫課</div><div>(貨物合庁)</div><div>四日市分室</div><div>小松出張所</div><div>名古屋出張所</div><div>(野跡検疫場)</div></div>	〒479-0881	常滑市セントレア1-1 CIQ棟5階	(0569)38-8583
			(0569)38-8577
	〒479-0881	常滑市セントレア1-1 中部空港合同庁舎1F	(0569)38-8579
	〒510-0051	四日市市千歳町5-1 四日市港湾合同庁舎	(0593)52-6918
	〒923-0993	小松市浮柳町 小松空港内	(0761)24-1407
	〒455-0032	名古屋市区入船2-3-12 名古屋港湾合同庁舎	(052)651-0334
	〒455-0845	名古屋市区野跡2-4-12	(052)381-3361

<b>関西空港支所</b>		
庶務課		
検疫第1課	〒549-0011 泉南郡田尻町泉州空港中1番地 CIQ合同庁舎	(072)455-1955
(貨物合庁)	〒549-0021 泉南市泉州空港南1番地	(072)455-1956
検疫第2課	〒549-0011 泉南郡田尻町泉州空港中1番地 CIQ合同庁舎	(072)455-1958
(関西空港検疫場)	〒549-0001 泉佐野市泉州空港北1番地	(072)455-1964
(霊長類検疫施設)		(072)455-1960
検疫第3課	〒549-0011 泉南郡田尻町泉州空港中1番地 CIQ合同庁舎	(072)455-1956
<b>神戸支所</b>		
庶務課		
検疫課	〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-4-3 神戸防災合同庁舎	(078)222-8990
(荻藻検疫場)	〒653-0032 神戸市長田区荻藻通7-1-7	(078)671-0266
大阪出張所	〒552-0021 大阪市港区築港4-10-3 大阪港湾合同庁舎	(06)6575-3466
(一突検疫場)	〒552-0022 大阪市港区海岸通3-3-29	(06)6571-0328
米子空港出張所	〒684-0055 鳥取県境港市佐斐神町1634 米子空港ビル	(0859)45-3800
岡山空港出張所	〒701-1131 岡山市北区日応寺1277 岡山空港ターミナルビル	(086)294-4737
広島空港出張所	〒729-0416 三原市本郷町善入寺64-31 広島空港ターミナルビル内	(0848)86-8118
四国出張所	〒761-1401 高松市香南町岡1312-7 高松空港内	(087)879-4654
松山分室	〒791-8042 松山市南吉田町2731 松山空港内	(089)965-1922
小松島港事務所	〒773-0001 小松島市小松島町外開1-11 小松島みなと合同庁舎	(0885)32-2422
<b>門司支所</b>		
庶務課		
検疫第1課	〒801-0841 北九州市門司区西海岸1-3-10 門司港湾合同庁舎	(093)321-1116
検疫第2課	〒800-0113 北九州市門司区新門司北3-1-2	(093)481-7335
(新門司検疫場)		
(太刀浦検疫場)	〒801-0805 北九州市門司区太刀浦海岸65	(093)321-0509
検疫第3課	〒801-0841 北九州市門司区西海岸1-3-10 門司港湾合同庁舎	(093)321-1116
博多出張所	〒812-0031 福岡市博多区沖浜町8-1 福岡港湾合同庁舎	(092)262-5285
福岡空港出張所	〒812-0851 福岡市博多区大字青木739番 福岡空港ビル	(092)477-0080
長崎空港出張所	〒856-0816 大村市箕島町593 長崎空港ビル	(0957)54-4505
熊本空港出張所	〒861-2204 上益城郡益城町大字小谷1802-2 熊本空港旅客ターミナルビル内	(0962)32-3744
鹿児島空港出張所	〒899-5113 霧島市隼人町嘉例川字請口4498-2	(0995)43-9061
<b>沖縄支所</b>		
庶務課		
検疫課	〒900-0001 那覇市港町2-11-1 那覇港湾合同庁舎	(098)861-4370
石垣分室	〒907-0242 石垣市字白保1960番地104-2 石垣空港国際線旅客ターミナルビル	(0980)87-0064
平良分室	〒906-0013 宮古島市平良字下里1016 平良地方合同庁舎3F	(0980)79-9187
那覇空港出張所	〒901-0142 那覇市字鏡水150 那覇空港旅客ターミナルビル国際線エリア	(098)857-4468



## ◎畜産物・動物の輸出入検疫数量実績 (令和7年11月)

### ●輸入畜産物（前年同月比）

11月分の全体の輸入量は前年同月比93.5%とかなりの程度減少しました。

### ●輸出畜産物（前年同月比）

11月分の全体の輸出量は前年同月比89.8%とかなりの程度減少しました。

(単位：KG、アンブル、個)

品目名			輸入 11月	輸出 11月
骨類	骨		1,216,482	2,000
	碎骨		525,835	—
	蹄角		2,352	—
	骨髄		25,766	—
	蹄角粉		18,000	—
	その他の骨		—	—
	計		1,788,435	2,000
肉類	牛肉	冷蔵	15,781,487	509,606
		冷凍	26,546,681	626,495
		その他	17,904	191
		加熱処理	135,619	—
	豚肉	冷蔵	31,711,793	4,191
		冷凍	44,334,143	193,440
		その他	1,633	—
		加熱処理	667,005	—
	めん羊肉		1,267,141	—
	山羊肉		58,232	—
	鹿肉		—	11
	その他の偶蹄類肉		1,321	—
	加熱処理その他の偶蹄類肉		22	—
	ハム		327,702	—
	加熱処理ハム		30,908	—
	ソーセージ		697,964	666
	加熱処理ソーセージ		594,305	—
	ベーコン		51,215	10,322
	加熱処理ベーコン		954	—
	馬肉		352,936	—
	うさぎ肉		8,204	—
犬肉		—	—	
家きん肉		44,934,986	376,929	
家きん加熱処理肉		43,114,318	—	
非加熱 その他の肉	牛	牛	769,746	57
		豚	134,624	983
		家きん	100,236	38,487
		その他	16,774	10,849
	加熱処理 その他の肉	牛	112,145	—
		豚	3,297,238	—
		家きん	3,870,902	—
		その他	528,153	—
計		219,466,292	1,772,225	
臓器類	牛臓器		75,410	29
	豚臓器		30,187	23,500
	その他の偶蹄類臓器		4,371	—
	加熱処理牛の臓器		—	—
	加熱処理豚の臓器		—	—

(単位：KG、アンブル、個)

品目名		輸入 11月	輸出 11月
臓器類	加熱処理その他の偶蹄類臓器	—	—
	偶蹄類以外の臓器	47,167	1,189
	消化管等	2,174,396	1,459
	加熱処理消化管等	—	—
	ケーシング	266,975	—
	脂肪	2,925,363	1,000
	非加熱その他の臓器	4,090	—
	加熱処理その他の臓器	—	—
	加熱処理家きん臓器	201,661	—
	加熱処理その他の家きん臓器	29	—
	計	5,729,649	27,177
卵類	殻付卵	674,564	1,852,949
	液卵	870,343	1,600
	その他の卵	—	11,596
	計	1,544,908	1,866,145
皮類	牛皮	2,383,727	1,035,712
	豚皮	87,169	4,166,686
	めん羊皮	172,500	—
	山羊皮	—	—
	鹿皮	29,633	—
	その他の偶蹄類の皮	—	—
	馬皮	34,177	—
	うさぎ皮	40,320	—
	犬皮	—	—
	その他の皮	—	—
	計	2,747,526	5,202,398
毛類	牛毛	—	—
	豚毛	100	—
	羊毛	858	—
	山羊毛	10,355	—
	鹿毛	—	—
	その他の偶蹄類の毛	10,716	—
	馬毛	657	—
	うさぎ毛	—	—
	羽毛	195,544	11,025
	犬毛	—	—
	その他の毛	—	82
	計	218,230	11,107
乳製品類	チーズ	14,900,924	13,226
	バター	1,435,332	234
	偶蹄類動物の飼料用乳製品	5,695,409	—
	その他の乳製品	5,500,030	242,026
	計	27,531,695	255,487
ミール類	血粉	150,797	—
	肉粉	20,771	—
	肉骨粉	—	—
	皮粉・羽毛粉	—	—
	計	171,568	0
その他	精液（アンブル）	45,541	2
	受精卵（個）	159	—
	ふん・尿	7	—
	計	7	2
わら類	穀物のわら	16,304,480	—
	飼料用の乾草	—	—
	その他	139,370	—
	計	16,443,850	0
総計		275,642,152	9,136,538

※ 解放重量ベースの速報値

(単位：頭、羽、個、群)

動物名		輸入 11月	輸出 11月
牛	乳用繁殖用	—	—
	肉用繁殖用	—	—
	肥育用	—	—
	と畜場直行用	—	—
	その他	—	—
豚	繁殖用	93	—
	その他	—	—
めん羊		—	—
山羊		—	—
その他の偶蹄類		—	—
馬	繁殖用	23	—
	乗用	12	—
	競走用	44	2
	肥育用	518	—
	と畜場直行用	—	—
	その他	—	—

(単位：頭、羽、個、群)

動物名		輸入 11月	輸出 11月
その他の馬科		—	—
うさぎ		170	11
初生ひな（鶏）		57,673	—
初生ひな（その他）		—	—
種卵（個）		—	—
蜜蜂（群）		—	—
指定検疫物以外の動物		—	7,521
犬		792	580
猫		408	279
あらいぐま		—	—
きつね		—	—
スカンク		—	—
サル		—	—



動物検疫所のホームページでは広報資料を掲載しています。左のQRコードから広報資料をダウンロードして利用してください！

<https://www.maff.go.jp/aqs/topix/pamphlet.html>

～ 2026 年の探知犬カレンダーも掲載していますよ！～

## ◎動検通信（沖縄支所）

「ハイサイ！」。これはうちなーぐち（沖縄方言）で「こんにちは」を指す言葉です。実は男性言葉であり、女性の場合は「ハイタイ」と言うそうです。沖縄では当たり前のご当地文化も、県外から来た者にとっては目新しいものばかり。

沖縄では「かりゆしウエア」が広く定着していますので、沖縄支所が入居する那覇港湾合同庁舎でも赤や青の華やかな「かりゆしウエア」を着て勤務する職員が大勢います。行事で言えば6月23日の「沖縄慰霊の日」は沖縄戦で亡くなった方々を追悼し、平和を祈る日で、県の公的機関や学校は休日となりますが、国の機関は通常業務で、各官署の長は公務として沖縄戦没者追悼式に参加します。お盆は旧盆で行われますので毎年日付が変わり、「ウチカビ」と言う焚上げ用の紙のお金がスーパーで普通に売られます。またこの時期、サトウキビが店頭に並ぶのですが、あの世での杖としてご先祖様に供えるのだそうです。食べ物で言えば果物が豊富で、バナナやパイナップルだけでも何種類も店頭に並びます。そして沖縄そばや黒糖はご当地ものが何種類も販売されてます。

このような中、沖縄支所は那覇空港出張所のほか、石垣空港に石垣分室、宮古島の平良港に平良分室を持ち、今年7月からは石垣分室に1名が常駐しています。また、宮古島と橋でつながった下地島にある下地島空港に国際線が就航しています。石垣港と平良港にはクルーズ船やヨットがしばしば入港しており、職員が両分室に出張して対応しています。ちなみに那覇空港から石垣空港までは約400km（直線距離で東京－神戸間と同じ）、那覇空港から下地島空港までは約290kmです。先日、石垣島で某有名ハンバーガー店が一時閉店した際には、与那国島で「最寄りの支店は台湾」という話が出た程に台湾が近くにあります。なお台湾の基隆港と石垣港を結ぶ国際定期フェリーが2025年内に週3便の就航を計画中で、水際防疫の重要性は益々増加しています。

沖縄支所は県内の関係各所と協力して、引き続き水際防疫に努めて参ります。

最新のトピックスは  
こちらへ➡

動物検疫所のホームページ <https://www.maff.go.jp/aqs/>  
農林水産省のホームページ <https://www.maff.go.jp/>  
WOAH のホームページ <https://www.woah.org/en/home/>

動検時報はこちらにも掲載しています。



編集・発行 農林水産省  
動物検疫所  
横浜市磯子区原町 11 - 1  
(045) - 751 - 5921 (代表)